

『哲学の探求』第50号刊行にあたって

今年もみなさまに『哲学の探求』をお届けすることができ、うれしく思います。今回の『哲学の探求』第50号には、2022年度「哲学若手研究者フォーラム」（以下、若手フォーラム）のテーマレクチャーにご登壇いただいた先生方による論文2本、個人研究発表を行なってくださった方々による論文7本、計9本の論文が掲載されています。

2022年度の若手フォーラム（7月23・24日）は、東京五輪の終了により通常日程に戻りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、三年連続でのオンライン開催となりました。テーマレクチャーは「社会存在論」をテーマに、レクチャーとして倉田剛先生（九州大学）と三木那由他先生（大阪大学）をお招きしてご講演いただきました。公募枠では、個人発表36件とワークショップ1件が行われ、活発な議論が交わされました。両日合わせて230名を超える方々にご参加いただき、大変盛況のうちに終わりました。

オンラインでの開催には感染症の予防だけでなく、さまざまな事情で現地に来られることが難しい方にも参加していただきやすいという利点があります。この三年間でオンライン開催のノウハウが蓄積され、運営面でも改善してまいりました。2022年度は外部のチケットサービスを導入したことで参加登録が簡便になり、運営委員の仕事量も削減されました。

その一方で、オンライン開催では発表の場以外での参加者同士の交流が難しく、現地開催ならではの魅力が損なわれる面があります。私自身、参加者の方々やほかの運営委員とオフラインで会うことなく二年の任期を終え、さみしく思う気持ちもあります。今後は、新型コロナウイルス感染症の5類への見直しを検討されるなか、対面開催の再開も模索されます。オンライン／オフライン開催にはそれぞれメリットとデメリットがあり、今後も開催形態を工夫する必要があるでしょう。また、安全に議論ができる場づくりのための運営や、『哲学の探求』の執筆費や若手フォーラム参加費・運営委員の謝礼の金額など、見直すべき点は多くあります。今後も若手フォーラムが皆さまにとってより良い場となるために、全体会などをつうじてお力をお貸しいただければ幸いです。

最後になりましたが、『哲学の探求』の編集・校正作業に携わってくださった皆さまに深く御礼を申し上げます。若手研究者が、所属や専門に関係なく論考を発表し議論し合える場は、インターネットやSNSがよりいっそう普及した現在であってもなお貴重なものであると思います。若手フォーラムとこの『哲学の探求』が、今後の哲学研究の発展に繋がることを、運営委員一同心から願っております。

2022年度哲学若手研究者フォーラム運営委員・総務担当 柳田詩織